

# 褥瘡の外用薬物療法の知識向上を目指した

第20回 日本褥瘡学会学術集会

2018年9月28日（金）～29日（土）

パシフィコ横浜

## 「"じょくそうの薬"新聞」の月刊配布による継続的な教育活動



○ 朝倉 寛達  
山梨厚生病院 薬剤室

### 緒言

褥瘡対策は入院する全ての患者が対象となっている。褥瘡対策や褥瘡処置は、通常、専門スタッフのみが行うものではない。また毎回同じスタッフが行うとも限らない。そのため、褥瘡ケアの知識は、ケアに携わる全てのスタッフに必須なものである。

外用薬による薬物療法は、除圧や外力コントロールと同様に、褥瘡治療において重要であり、効果を発揮させるために適切な薬剤選択と適切な使い方が求められる。

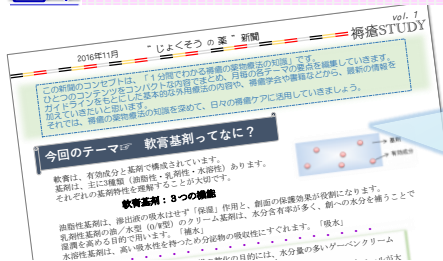
褥瘡に用いる外用薬については、研修会テーマとして職員からの講義の要望も高いが、研修会などの集団学習方法は、伝えられる対象が参加した職員に限られ、また研修会実施の間隔が長期間になると知識や関心が薄れていくことが懸念される。そこで、継続的に伝えられる学習方法として、毎月一回（1枚）褥瘡の外用薬物療法をテーマにした「"じょくそうの薬"新聞」を関連施設・各部署に配布して、スタッフの知識向上を図る試みを企画した。

### 方法

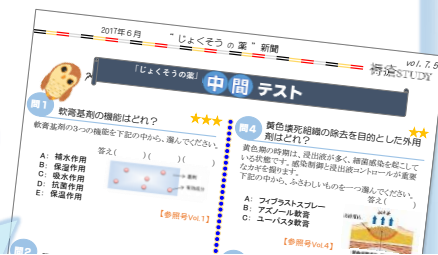
- ① 「"じょくそうの薬"新聞」（図1）を毎月1テーマずつ編集して、平成28年11月から平成30年6月まで発行した。（図2）当院と系列病院（3病院）の関係各部署に毎月配布した。
- ② 8テーマの新聞の配布終了時（平成29年6月）に、改善点や学習効果に関するアンケートを実施した。（図3）当院と系列病院（3病院）の合計13部署の看護部職員の結果を調査した。

### 図1 「"じょくそうの薬"新聞」

用紙サイズA4版1枚（文字数800字程度）



外用剤の大部分をしめる基剤の剤に対する働きは無視できないため、まず基剤特性の理解が優先と考え、このテーマを最初に選び企画をスタートした。



### 図2 「"じょくそうの薬"新聞」のテーマ

- Vol.1 軟膏基剤ってなに？
- Vol.2 主成分の薬効
- Vol.3 浅い褥瘡と深い褥瘡（色調分類の説明）の治療の流れ
- Vol.4 壊死組織除去（滲出液の多/少の場合分け）
- Vol.5 肉芽形成促進（滲出液の多/少の場合分け）
- Vol.6 上皮化促進
- Vol.7 薬剤滞留障害とその対策
- Vol.7.5 「中間テスト（各テーマの要点の確認問題）」
- 「"じょくそうの薬"もっと深読み新聞」のテーマ
- Vol.8 薬剤ポイントレクチャー：ユーハスタとゲーベンクリーム

— 山梨厚生会 —

山梨厚生病院 (497床): 全26診療科・急性期医療

甲州市立勝沼病院 (51床): 超高齢者医療・総合診療病院

塩山市民病院 (179床): 一般診療・機能回復医療・医療的療養・医科歯科連携病院

山梨市立牧丘病院 (30床): 在宅医療・総合診療病院

山梨厚生病院 概要: 全26診療科

地域がん診療病院

一般病床293床 (内: 特殊疾患病床78床 地域包括ケア病床35床)

感染症病床4床

精神科病床200床 総数497床

外来化学療法室 (10床) 人工透析室 (36床)

医師 60名 看護師 317名

薬剤師 16名 他コ・メディカル 約 100名

### 【 褥瘡回診：山梨厚生病院 】

\* 毎週（木）PM 回診時間：2時間前後

第1・3週は 脊損1・精神科病棟

第2・4週は 脊損2・一般病棟

一つの病棟あたり2週サイクルの回診。

\* 1回の回診あたりの患者数は、おおよそ10名前後。

〈H29年度下半期〉	
褥瘡推定発生率	有病率
一般病棟 0.50%	4.33%
脊損病棟 13.20%	14.62%
精神科病棟 0.92%	1.14%

- \* 回診メンバー**
- 皮膚科医師 1名
  - 皮膚・排泄ケア認定看護師 (WOCN) 1名
  - 褥瘡委員会委員長 (師長) 1名
  - 薬剤師 1名
  - 各病棟の看護師 数名



**3つの機能**

- 保湿作用
- 補水作用
- 吸水作用

**軟膏剤の構成**

- 1% 薬効主成分 (1%前後)
- 99% 軟膏基剤

**皮膚欠損部を覆うことにより、創の乾燥を防ぎ、創面に十分な酸素と栄養を供給し、創の治癒を促進させることが重要です。**

それまでの内容の振り返りを目的として、問題形式の内容を企画した。興味を持ちやすい出題だったという意見が得られている。(中間と期末テストの2企画実施)

薬剤師アヒール (作成者)

**強い保湿効果を期待するには?**

表皮潤滑の保湿作用は、弱い吸水作用や保湿性の外用薬を用います。保湿効果を高めるには、保湿成分を含有する創面の水分コントロールとして、ふたつは必要です。

**外用薬を創部に貼る際の注意点は?**

皮膚のたんぱく質や脂質の影響を受け、貼付部位に炎症やアレルギー反応が起る場合があります。貼付部位は清潔で乾燥させ、その対策として、**あせし**の原則を守り、貼付部位を乾燥させないでください。

- Vol.9 薬剤師ホントレクチャー：フィラストスプレーの作用・使用方法
- Vol.10 薬剤師ホントレクチャー：ヨードホルムガーゼの作用・使用方法
- Vol.11 薬物療法に必要な病態評価項目
- Vol.12 S→s にする薬剤
- Vol.13 E→e //
- Vol.14 I→i //
- Vol.15 N→n //
- Vol.16 G→g //
- Vol.17 P縮小
- Vol.18 フレンド軟膏
- Vol.19 「期末テスト(過去の要点の確認問題)」

『作成時に図の引用や説明を参考にした資料』

- ・褥瘡を治す「外用薬」の使い方(照林社)
- ・褥瘡外用療法のエッセンス(南山堂)
- ・褥瘡サミットin群馬2013配布資料
- ・医薬品メーカーのパンフレット
- ・褥瘡治療薬ナビ(じほう)

—編集薬剤師—  
塩山市民病院 秋山 真二  
山梨厚生病院 池田 直樹  
朝倉 寛達

アンケート質問票

《5段階評価》

- 問1 新聞のボリュームはいかがでしたか。
- 問2 新聞のテーマに対して興味を持っていましたか。
- 問3 新聞の内容は理解できましたか。
- 問4 新聞によって、新しい知識を得ることができましたか。
- 問5 自分の業務に役に立つと思いますか。

《自由記載》

- 問6 新聞のテーマにして欲しい内容があればご記入をお願いします。
- 問7 褥瘡に関わる薬剤師に、今後の取り組みや関わりで期待することがあればご記入をお願いします。
- 問8 参考にお伺いします。中間テスト(6月号)の自己採点はいかがでしたか?

結果

アンケートの集計結果

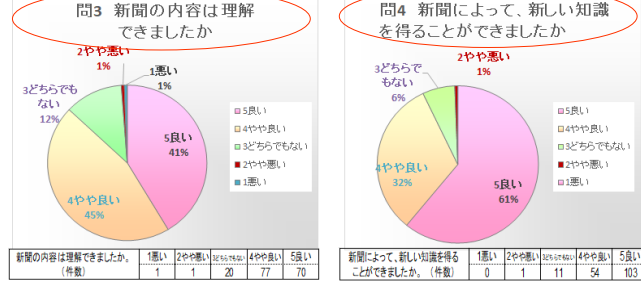
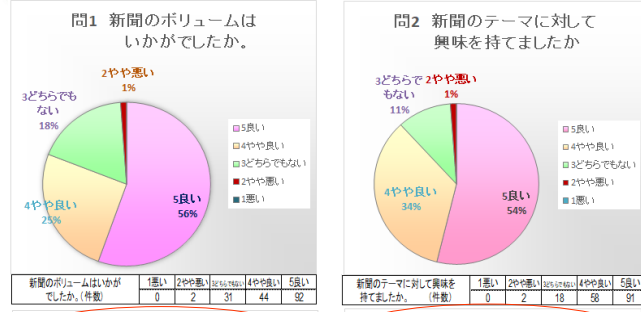
アンケート対象：看護師(4病院・13部署)

配布枚数：214枚

アンケート回収枚数：185枚(回収率：86.5%)

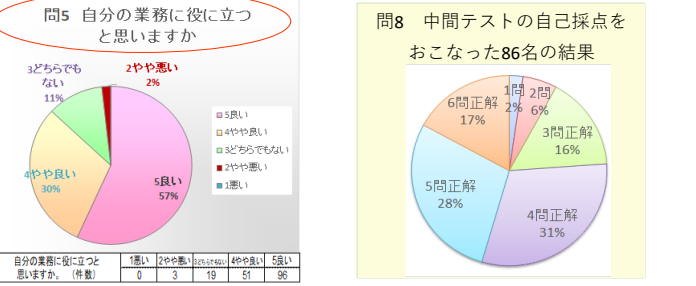
初問「じょくそうの薬」新聞：まだ読んでいない：12名  
：読んだ：173名

読んだ173名に関するアンケート集計結果

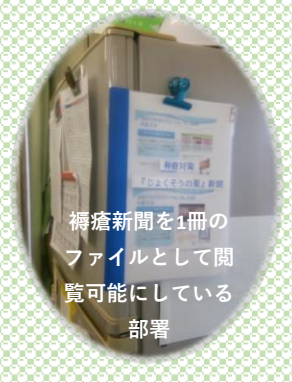


各設問での自由記載(36件)より一部紹介

アンケート項目	フリーコメント
問1 新聞のボリュームはいかがでしたか。	・字が多いのでパッと見てわかるように絵を多くして欲しい。 ・カラーで文章も分かりやすいのでいつも楽しみにしています。
問2 新聞のテーマに対して興味を持っていましたか。	・vol.1軟膏剤ってなに(8件) 薬剤師としての役割を理解して使用するの大切さがわかった。 ・vol.3〜6褥瘡の状態によってどのような薬が効いているかが印象深かった。 ・vol.7.5中間テスト (2件) 興味を持ちやすい構成だと思いました。
問6 新聞のテーマにして欲しい内容があればご記入をお願いします。	・褥瘡に塗布する適正な軟膏量 ・具体的に写真付きで褥瘡が完治した様子(期間・薬など載せてくれると良い) ・四肢拘縮がある患者さんのポジショニング方法 ・褥瘡治療と栄養サポート ・患患の原因について ・ハイドロAgチタン製品について ・スキャンナーについて ・褥瘡を防ぐための体位交換 (2件) ・ポジショニングの方法
問7 褥瘡に関わる薬剤師に、今後の取り組みや関わりで期待することがあればご記入をお願いします。	・褥瘡ラウンドの中で包交の場面でアドバイスをあっても良いかと思う ・薬剤の効果や副作用の指導 ・mixにするときの効果 ・毎回、内容・量(情報)・読みやすさに工夫がされているので楽しみにしています。本を聞いている勉強に厚みがあるか気が向かないので、ぜひ今後も続けて頂きたいです。



部署毎の新聞活用例



考察

・新聞の閲読率が93.5% (初問：173/185名) であることから、多くの職員に新聞の月刊発行の方法によって継続的に知識を伝えられた。



- 理解度を問う設問3では「良い」が4割で低めに出ているが、新しい知識が得られたかを問う設問4の割合が多いことから、初めて学ぶ内容だったとも考えられる。
- 設問4、設問5の「良い」「やや良い」の合計がそれぞれ93%（約160名）、87%（約150名）だったことから、新しい知識の伝達と、スタッフ各自の業務への活用に繋がられた取り組みになったと考えられる。
- 褥瘡ケアは専門看護師が一人で行うケースはなく、複数名が関与している。このアンケート結果から、チーム医療の実現の前提となる「各医療スタッフの知識・技術の向上」を図る積極的な教育活動※1として、今回の取り組みは価値のある試みであったと考えられる。
- また、平成22年4月厚生労働省は「医療スタッフの協働・連携によるチーム医療の推進について」の通知を発出し、その中で、チーム医療において薬剤師が主体的に薬物療法に参加することの重要性を示している。今回の取り組みでは、薬剤師の持つ専門知識を、薬剤師の強みとして他職種に伝え、薬剤師の専門領域をより深く理解してもらう事に、貢献できたと考えられる。
- 今後は、現場でのサポートも進んで行き、適切な薬物療法が実施されるようにしていきたい。

※1 医政発0430第1号（平成22年4月30日）厚生労働省医政局長通知 「医療スタッフの協働・連携によるチーム医療の推進について」の声明文の基本的な考え方の中で、

「医療機関のみならず、各医療スタッフの養成機関、職能団体、各種学会等においても、チーム医療の実現の前提となる各医療スタッフの知識・技術の向上、複数の職種の連携に関する教育・啓発の推進等の取組みが積極的に進められることが望まれる。」が記されている。

第20回日本褥瘡学会学術集会  
利益相反 開示

山梨厚生会 山梨厚生病院：朝倉 寛達

演題発表に関連し、開示すべき利益相反関係  
にある企業などはありません